

## 平成27年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は「地元根ざし、人権教育を行う学校を」という、地域の熱い要望により設立された。その経緯と伝統を大切に継承し、創立以来の人権教育を軸とした教育実践の充実をはかり、今後も柴島高校人権教育の更なる発展をめざす。そのため、全ての生徒のニーズに応えられる学校づくりをめざし、生徒一人ひとりの個性の伸長と持てる力を最大限に伸ばし、自己実現に向けて大きな展望のもてる「確かな学力と生きる力」を身につけることができる総合学科づくりを行う。

合わせて、障がいの有無や様々な立場の人が、互いに違いを認めながら、共に生き生きと充実して暮らすことのできる人権が尊重された成熟社会の実現に資する生徒が育つ学校を創造する。

- 1 生徒一人ひとりがそれぞれの個性を生かし、主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を感じる中で、知識・技能を獲得し、思考・判断・表現できる力をつけることのできる学校
- 2 自己探求と社会参加への自覚を深める取り組みを通じて、自己実現に向けた進路を切り拓ける学校
- 3 活発な特別活動を通して豊かな心と健康な身体を育てる学校
- 4 一人ひとりが活躍し、学びを得ることによって、社会の多様性推進に貢献できる生徒が育つ学校
- 5 家庭との連携を深めるとともに、生徒一人ひとりが地域や社会の人々と関る中で、豊かな人間性と市民性を育てる学校

## 2 中期的目標

## 1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

- (1) 「協調学習」への授業改善をすすめ、主体的な学習力（生徒自らが考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出しついでいける力）の育成
  - ア カリキュラム委員会を核として学習力向上に向けた新たな授業形態への改善をはかる。
  - イ 学習者の視点に立った、教材の研究・開発する。
  - ウ 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。
  - エ 学校経営推進費の活用により視聴覚機器の導入し生徒の発表する場を増やす。そのことにより表現力を育成し主体的な学びの姿勢を強化する。
- (2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進
  - ア 支援コーディネーターを中心として、全ての生徒がわかりやすい授業づくりについての研修並びに授業改善に取り組む。
  - イ 学校経営推進費を活用し電子黒板やプロジェクターなどの視聴覚機器を充実させることで視覚による情報を増やし理解を促進させる。
- (3) 各種資格・検定や技能取得に向けた取り組みの推進
  - ア 進路部が中心となり資格・検定（英検、漢検、韓国語検定、簿記、情報処理、毛筆・硬筆検等）獲得のための補習を実施する。

## 2 キャリア教育・人権教育の推進

- (1) 3年間を見通したコアカリキュラムの作成
  - ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、特別教育活動を通じて、自己の探求と、他者とのつながり、自分と社会のつながりを理解させ、夢と志を持った進路選択と自己実現が図れるよう支援する。
  - イ 自治活動においては、学校生活における様々な課題を発見し、自他の個性を活かし、協働して課題克服に取り組む体験をとらえて市民性が育つよう支援する。
- (2) 社会参加を促す体制の確立
  - ア 地域連携型授業並びに特別教育活動を通じて、生徒が、地域社会に直接アクセスすることや、地域の方が「ななめの関係」としての支援者となっていただくことができるように地域連携部を核として連携体制の整備をすすめる。
  - イ 地域活動協議会への参加を通じて、地域と連携し、教育的・社会的資源として貢献できる学校づくりをすすめる。

## 3 安全安心で魅力ある学校づくり

- (1) 安全で安心な学校づくり共同研究校として、人権教育推進委員会を中心として、調査・研究をすすめ、「世代を超えた通わせたい学校」の創出につとめる。
- (2) 支援教育サポート校として、研究をすすめ、「共に学び共に育つ教育」についての公開授業、巡回相談を実施する。
  - ア アセスメントに基づく個別の教育支援計画の作成と教育実践についての研究を促進する。

## 4 ICTを活用した校務の効率化

統合学校ICTネットワークの活用と、校内イントラネットの整備・総合をすすめる中で、業務の精選と効率化を図り、生徒と触れ合う時間の確保に努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様々な取り組みに関して将来に役立つという、一定の高い評価を得ることができている。(生徒:86.4%、保護者:91.7%)</li> <li>・自立支援コースの制度は一定成果を挙げ、生徒・保護者に評価されている。(生徒:92.5%、保護者:93.4%)</li> <li>・「生き方や将来について考える機会が多い」と生徒も保護者もとらえている。(生徒:95.0%、保護者:88.8%)</li> <li>・選択科目については生徒も保護者も進路実現などに対する満足度が高い。(生徒:90.9%、保護者:93.8%)</li> <li>・ICT機器の活用は電子黒板が整備され一定成果を収め、活用する教職員が増えたが、生徒や保護者は更なる活用を求めている。(生徒:79.4%、保護者:80.5%、教職員:84.8%)</li> <li>・ホームページが一新され、ブログも頻りに更新されるようになったことで生徒も保護者も満足している。(生徒:81.9%、保護者:88.4%)</li> <li>・家庭学習に関しては生徒・保護者とも課題を感じている。(生徒:42.8%、保護者:52.3%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて全体的に成果を挙げていると感じている。</li> <li>・次年度は組織の在り方を考え、学校のチーム力を上げるような取り組みを展開していただきたい。</li> <li>・家庭学習についての課題は、校内に学習しやすい環境をつくることで解決を図ればどうだろうか？自習室は用意されているが、使用のためのハードルが高く、使いやすい状況とは言い難い。気軽に利用できる工夫をお願いしたい。</li> <li>・ホームページが見やすくなり、ブログが頻りに更新されている(1日あたり少なくとも2・3回、多いときは5・6回)ことは評価する。</li> <li>・次年度はさらなるICT機器の活用をお願いしたい。導入された電子黒板等がもっと活躍する場を期待する。</li> <li>・「困った生徒」ではなく「困っている生徒」の視点で、さらなる人権教育の取り組みを期待する。</li> <li>・ライフプランニング、総合的な学習の時間でのアクティブラーニングの取り組みは評価する。次年度はいわゆる教科の授業でそれをさらに深めていただきたい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 主体的な学習に向けた授業改善の推進	<p>(1) 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p>	<p>ア. 学習オリエンテーションの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年時において学習オリエンテーション並びに支援週間[学習相談とつまづき克服] (年3回)を設定する。</li> </ul> <p>イ. スモールステップでの学習振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週末課題を設定し、定期的に学習の振り返りを行うとともに課題学習を習慣化することによって、主体的な学びへの意欲を育てる。</li> </ul> <p>ウ. 視聴覚機器の充実で発表の場面を増やし表現力の育成を図る。</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。 (研修2回/年、公開授業2回/年)</p> <p>イ. 各教室にプロジェクターを導入し視覚による理解を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの授業(達成感・意欲)項目のポイントUP (H26:3.2/4)</li> <li>・生活実態調査を通じて授業外での学習時間1.5時間以上(H26:1h)</li> <li>・学力診断テスト(総合平均点のUP)</li> <li>・授業アンケートの授業(教材・構成・分析)項目のポイントUP (H26:3.2/4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの授業(達成感・意欲)項目(3.2/4)(○)</li> <li>・1年生については学習オリエンテーションを実施し「学び方の学び」の習得の意識を持たせた。(○)</li> <li>・生活実態調査による学習時間1.0h(△)</li> <li>・プロジェクターの整備により生徒の発表が容易になり機会が増えた。(○)</li> <li>・公開授業・研究協議を地域の小中学校と連携し3回の機会を持った。校内的には教科ごとの研究授業・研究協議を12月に実施した。(◎)</li> <li>・プロジェクターの整備により各授業の視覚化が飛躍的に進んだ。(◎)</li> <li>・授業アンケートの(教材・構成・分析)項目(H26:3.2/4→3.2/4で変わらず。)(○)</li> </ul>
2. キャリア教育・人権教育の推進	<p>(1) コアカリキュラムの継続的な効果測定を行い、その改善を図る。</p> <p>(2) コアカリキュラムの授業における地域教育資産の開拓を図る</p>	<p>ア. コアカリキュラム3年間の指導をポートフォリオ化し、生徒の成長の「見える化」を図り、継続的に改善を加えるとともに、評価法の研究を継続して行う。</p> <p>ア 地域活動協議会への参加と連携 イ 地域企業との連携授業 ウ 地域ボランティア活動への参加 エ 出身中学校訪問の実施</p> <p>ア. 地域活動協議会を通じて、地域教育・福祉資産の開拓をはかり授業のフィールドワークの拡充を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究・実践紀要の作成</li> <li>・進路達成率98%以上</li> <li>・広域防災訓練への連携参加と継続して地域防災計画の作成にあたる</li> <li>・地域近隣施設への生徒派遣(30回/年以上)</li> <li>・フィールドワーク拡充(4事業所 or 組織以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月の校内研修においてコアカリキュラムの成果と課題を議論し一定の成果の確認を行った。(◎)</li> <li>・進路達成率98%(○)</li> <li>・コアカリキュラムの評価については文章表記、ルーブリック評価・観点別評価等の方法が定着して生徒への還元ができています。(◎)</li> <li>・地域医療・防災マップの作成を行い、校内や地域の事業所に掲示した。(◎)</li> <li>・地域活動協議会の要請により、敬老の日のイベントや地域のイベント(夏祭りや桜まつり、区民まつり)に積極的に多くの生徒が参加し好評を得た。(◎)</li> <li>・和菓子屋さんとの連携で市販の商品開発を行った。(◎)</li> <li>・淀川キリスト教病院と連携し、チャリティ・イベントを実施した。(2/14)。(◎)</li> <li>・淀川キリスト教病院と連携し、地域清掃活動を実施した。(○)</li> <li>・本校の生徒の状況を報告するために在校生の出身中学への訪問を行い好評だった。(年2回)(◎)</li> </ul>
3. 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 熟慮して判断し自立ある行動のできる生徒の育成</p> <p>(2) 自治活動の活性化を図る</p> <p>(3) 「共に学び共に育つ教育」についての公開授業と巡回相談の実施する。</p> <p>(4) 行動規範の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パブリックとプライベートの区別ができる」「自他の尊重を意識し行動できる」を目標として、各ターム(4期)毎に目標を設定し、生徒の自律的行動の育成を図る。(継続)</li> <li>・生徒会自治活動の充実を図り、その活性化に努める。</li> <li>・支援コーディネーターがスムーズにサポート業務のできる体制の創出(継続)</li> <li>・サポート校としての情報発信と学校としての教育活動の充実(継続)</li> <li>・継続して柴島高校職員の行動規範を遵守する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間管理 遅刻者数20%減</li> <li>・規律遵守(生活実態調査における学年目標の達成率85%以上維持)</li> <li>・行事目標の達成率85%以上の維持)</li> <li>・支援教育サポート校として、公開授業の実施(2回/年)</li> <li>・リーフレット発行(6回/年)</li> <li>・学校診断アンケート 学校満足度90P以上維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での時間管理はほぼ完ぺきにできているが、遅刻数は目標にわずかに届かず17%減にとどまった。(△)</li> <li>・生徒会の活動は活発で行事等の運営や朝のあいさつ運動などに取り組み、成果を挙げた。後期の生徒会躍進選挙にも多数の立候補者が出て、生徒の関心の高さが示された。(◎)</li> <li>・学校ホームページを一新し、見やすくなったと好評で閲覧回数も飛躍的に向上した。ブログは1日あたり平均2~3回は更新されており、年間更新回数は1000を超え、生徒・保護者・本校に関心を持っていただいている中学生や保護者から好評を得ている。(◎)</li> <li>・リーフレットは昨年度から15号を数える。(○)</li> <li>・学校診断アンケートの満足度86%(△)</li> </ul>
4. ICTを活用した校務の効率化	<p>(1) システム管理部を中心として、統合学校ICTネットワークの運用に向けて、校内イントラネットの整備・総合をすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室電子掲示板とICTネットワークの効率的な活用により、更なるネットワーク活用の促進を図る。</li> <li>・校務処理システムの円滑な活用にむけて、システム管理部を核としたOJTを継続して行うとともに、システム改善への提言を行う。</li> <li>・教科情報教育係を中心として校内イントラを活用した教材の創出と授業の改善に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校グループボード、職員室電子掲示板、との連動化を図る。(継続)</li> <li>・職員学校診断アンケート(ICT活用についての取り組みに係る肯定的回答80%以上)</li> <li>・教材創出 各教科1本/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室掲示板、生徒向けの電子掲示板の活用は順調である。(○)</li> <li>・教職員のグループボード活用は一定進展したものの更なる活用を心がけ、職員会議などの会議時間の短縮を進める。(△)(51.5%)</li> <li>・プロジェクター型電子黒板の各教室への設置により各教員の教材電子化が飛躍的に進み、教材提示の視覚化が急速に進展した。(◎) (学校診断アンケートの肯定的回答84.8%)</li> <li>・教材は各教科平均10本以上創出達成</li> </ul>